

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2017年3月)

発表日2017年5月11日(木)

～16年度の経常収支は9年振りの20兆円超え～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
TEL : 03-5221-4573

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2016	4月	18,161	16,339	3,299	3,839	▲ 540	14,739	
	5月	17,576	15,392	1,947	3,285	▲ 1,338	15,501	
	6月	9,765	16,343	2,945	4,458	▲ 1,512	15,037	
	7月	19,396	15,477	2,812	3,750	▲ 938	14,514	
	8月	19,704	18,146	4,665	5,798	▲ 1,134	15,507	
	9月	18,643	15,433	3,858	5,156	▲ 1,299	13,842	
	10月	15,466	16,598	4,190	5,305	▲ 1,115	14,247	
	11月	14,267	17,564	5,795	6,471	▲ 676	13,671	
	12月	11,143	16,612	4,300	5,898	▲ 1,598	13,921	
	2017	1月	655	12,598	215	1,461	▲ 1,247	13,825
		2月	28,136	22,109	5,169	7,536	▲ 2,367	19,003
		3月	29,077	17,312	1,604	3,424	▲ 1,821	16,908

○経常収支（季調値）は36ヶ月連続の黒字。高水準の第一次所得収支が下支えに。

3月の経常収支（原数値）は29,077億円の黒字（コンセンサス:25,741億円の黒字、レンジ:17,870～30,464億円）とコンセンサスを上回る黒字となった。季節調整値では、17,312億円の黒字と36ヶ月連続の黒字である。1-3月期平均でみると10-12月期平均比+2.5%と増加しており、黒字の拡大が進んでいる。

経常収支（季節調整値）を項目別にみると、貿易収支、所得収支ともに2月から黒字幅を縮小させた。ただし、第一次所得収支については、2月からは低下したものの、3月も依然として過去と比べて高い水準を維持している。貿易収支については、輸出入ともに高い水準の結果となったが、輸出が前月から減少した一方で、輸入が増加したことで貿易収支の黒字幅を縮小させた。

共に公表された2016年度の経常収支は201,990億円の黒字となり、原油価格の下落を背景とした輸入金額の減少により、リーマンショック後、初の20兆円超えとなった。

○第一次所得収支は高い水準を維持するも一時的

3月の貿易外収支（季節調整値）をみると、第一次所得収支は16,908億円の黒字となった。前月の黒字幅を大きく押し上げた証券投資収益の効果は剥落したものの、直接投資収益が2ヶ月連続で高水準を維持した（2月:8,233億円の黒字→3月:8,964億円の黒字）。ただし、直接投資収益の水準切り上げは、財務省によると、大口案件による受取増の影響であり、一時的なものとのことである。以上のことから第一次所得収支は、2、3月からは水準を落とすものの、引き続き世界経済の好調を受けて、緩やかな拡大基調が続くことが見込まれる。

サービス収支は、1,821億円の赤字（2月：2,367億円の赤字）となった。内訳をみると、輸送収支、旅行収支が横ばいで推移する中で、その他サービス収支の赤字幅縮小がサービス収支の赤字幅縮小に寄与した。

○経常収支（季節調整値）は緩やかな拡大を見込む

3月の経常収支（季節調整値）は、単月では黒字幅を縮小させたものの、均してみれば第一次所得収支を下支えにして、緩やかな黒字拡大を続けていると考える。

貿易収支については、黒字幅こそ減少する結果となったものの、原油価格の上昇に伴う輸入増加の影響が強く、輸出も高い水準にあるなど、内容は悪くない。世界経済が拡大傾向にある中で、今後も輸出は増加基調が続くとみている。また、原油価格は需給の緩みから大幅な上昇を見込みにくいいため、輸入の増加ペースは鈍化するだろう。このように、貿易収支は今後も緩やかな拡大基調を辿ると考える。所得収支については、海外経済の底堅さを背景に、今後も堅調に推移し、経常収支の下支えとなるだろう。総じてみれば、経常収支は、今後も緩やかに黒字幅を拡大していく見込みだ。

